

東北エリアの系統状況の改善に向けた対応について

平成 2 9 年 1 2 月
資源エネルギー庁

- 東北北部募集プロセスについては、募集容量約280万kWに対して、応募容量が東北エリアの最大電力需要をも上回る規模の1,545万kWとなっているが、入札対象工事は、秋田地区から西仙台変電所までの500kVルートの構築であり、その工事完了時期はプロセス完了から約11年後、入札対象工事費の概算額は約4～5万円/kWとして、希望者の募集を開始した経緯を踏まえて、工事内容や工期、費用負担などが募集時の条件と大きく乖離しないように留意しながらも、より多くの電源が連系可能となるよう検討していくことが重要。
- このため、現在、広域機関で議論がなされている「コネクト&マネージ」等の検討を踏まえ、まずは「想定潮流の合理化」の考え方を拡大し、適用可能なものは最大限適用することによって、系統面での制約なしで接続できる最大限の電源の量を算出することとする。
- その上で、実際に接続した際にどの程度出力制御が行われるかについての情報は、今後入札を検討する発電事業者にとって重要な情報であることから、工事完了後の需給面での制約による出力制御率の見通しや、工事完了前の暫定連系の際の出力制御率の見通しを示すことが必要。
- その際、発電事業者が事業性の判断に必要な時間を確保することができるスケジュールを設定する必要があることから、来年1月下旬頃とされている、接続検討（第2段階）結果の回答は予定どおり実施した上で、入札受付開始までの期間を一定程度確保することが適当ではないか。
- また、本募集プロセスはこれまでにない応募容量（1,545万kW）であり、入札に向けて追加的に考慮すべき事項があるか、ご議論いただきたい。